

2014年度 国際WG活動報告

化学企業における
GSCMのIT化の現状
(CEDi参加化学企業アンケート調査結果)

2015年5月26日

情報通信委員会
CEDi小委員会 国際WG

ふりかえり（外資系化学企業におけるGSCM最適化）

外資系化学企業に於いては、2000年前後にERP/SAP導入を終え、**国・地域・会社**でばらばらであった**企業IT**を、**グローバルレベルで統合し最適化**していく取り組みを進めてきたことを確認した。グループを含めた企業内情報連携はERP/SAPで行い、外部とはeHUBを利用して、多くの関係先と情報連携している。

項目	外資系化学会社 取り組み例
データの標準化	<ul style="list-style-type: none"> ➢ グローバルレベルでのコード統一と管理体制一元化が完了 ➢ ビジネスの可視化を実現 ➢ 経営判断やGSCの意思決定に活用
業務プロセスの標準化	<ul style="list-style-type: none"> ➢ グローバルレベルでの業務プロセスと管理ポイントの標準化が完了 ➢ 国や地域毎に必要なローカライズについては最小化する取り組みを継続 ➢ 国際物流フォワーダーを集約
ERP/SAPの展開とシングルインスタンス化	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 出資比率50%以上のグループ会社にはSAPを導入し、経営情報をリアルタイムに共有 ➢ シングルインスタンス化完了
ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ➢ グループ内拠点間接続は専用回線 ➢ 外部との情報連携はeHUB（ELEMICA他）を利用 ➢ インターネット接続点を拠点（欧州、北米、南米、アジア）に準備
IT組織	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 中央集権組織 ➢ 間接業務のシェアドサービスの利用が普及 ➢ 集中購買 ➢ 24x7、多言語ヘルプデスク

1.GSCM全般（外資系化学と日系化学の比較）

	日系化学会社	外資系化学会社
グループ横断でGSCを統括・管理する組織	無し	有り
収集している情報	生販在情報、物流コスト	生販在情報、物流コスト、貨物のトラッキング情報等
情報収集の頻度	月次	発生都度リアルタイム
情報収集の手段	eMail	<ul style="list-style-type: none"> グループ会社間はSAP（シングルインスタンス） 社外の物流会社などとはB2B（EDI）で
IT化されている範囲	国内のSCのみ	GSCの全体（end-to-end）
IT化のニーズ	<ul style="list-style-type: none"> IT化のニーズはまだ希薄 業務標準化やマスター統合等にも手がついていない状態 	There is no efficient supply chain without an efficient IT.

2. 国際物流費用の把握（外資系化学と日系化学の比較）



	日系化学会社	外資系化学会社
1. 国際物流費用の削減（最適化）の取り組み状況	15社／18社 (3社は取り組みなし)	2社／2社
2. 国際物流費用の管理	事業部門または物流部門が、国内および海上航空費用を、受注・出荷・輸出許可単位または物流会社からの報告などで把握	事業部門または物流部門が、国内および海上航空費用を、 出荷単位 で把握 (一番細かい単位で収集)
3. 物流費用収集	月単位または随時データかeMail (電話、FAXのケースも)	月単位または随時 システム連携 (電話、FAXはなし)
4. 貨物のトラッキングなど輸送ステータスの監視	監視していないが、 今後監視したい (監視の計画なしの会社も)	監視している
5. 国際物流費用の「見える化」の実現	今後、取り組んで行きたい (「実現している会社」「計画なし」の会社も)	実現している

3. 国際物流費用の把握（外資系化学と日系化学の比較）



	日系化学会社	外資系化学会社
6. 国際物流費用の収集と管理についてIT化の要望	IT化以前にするべきことが多い <ul style="list-style-type: none"> ・ 主管する組織確立 ・ 情報収集のIT化 ・ 管理基準の統一 ・ 海外物流費用の一元管理 	特になし (実現済み)
7. IT化を要望される（希望されている）理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正確な情報把握 ・ 国際物流におけるトータルコストの見える化 ・ 実績把握／分析作業の効率化に寄与する （例えば、市場価格（費用）と自社費用を自動的に比較して国際物流費用の削減） 	特になし (実現済み)
8. IT化を要望されない会社の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 費用対効果が少ない ・ 情報を一元的に管理／分析する組織がない ・ 現状で十分 ・ 頻度が少ない 	

4.GSCMのIT化（外資系化学と日系化学の比較）

	日系化学会社	外資系化学会社
1. GSCMのIT化の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・国内の需給管理をIT化 ・国内の販売管理をIT化 ・国内の物流費用管理をIT化 ・GSCMのIT化事例は1社のみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルレベルで需給管理、販売管理および物流費用管理をIT化
2. 海外現地法人との情報のやり取りの手段	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイルサーバや電子メールが主体 ・システム統合の事例は2社 	<ul style="list-style-type: none"> ・システム統合 ・EDI
3. 3PLのシステムの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・利用していない 1 5社 ・利用している 3社 	<ul style="list-style-type: none"> ・3PLのシステムを利用 ・情報を自社システムに登録して利用 ・EDIで接続して利用
4. 貿易関連業務のIT化	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスツールを利用 1 0社 ・自社開発システムを利用 5社 ・他社開発システムを利用 3社 ・システムなし 4社 	<ul style="list-style-type: none"> ・自社開発システムを利用 ・他社開発システムを利用 ・システムを使っていない
5. NACCSの利用 (直接利用)	<p>a.利用している</p> <ul style="list-style-type: none"> 保税搬入 7社 VANNING 5社 輸出許可 2社 船積報告 4社 輸出作業の進捗確認 1社 <p>b.利用していない</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後使わない 1 2社 分からない 3社 	<ul style="list-style-type: none"> ・NACCS利用事例なし

ご清聴ありがとうございました。